

自己評価シート【区民センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
□a)、 ☒ b)、□c)	児童館の理念、基本方針は事業や行事などに盛り込まれているが、利用者が分かりやすいように児童館のパンフレットに掲載はできていない。 ただ、子ども会議では、毎回、目黒区子ども条例について子どもたちに周知している。
1-1-2 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
年間事業計画を立てる際や、事業や行事を企画する際には、目黒区児童館運営指針等の理念や基本方針に照らし合わせ、事業や行事後の振り返りにも活かしている。また、地域との関係を深めるためにも児童館まつりに協力していただくことや地域懇談会を開催することで、児童館の役割などを知ってもらっている。	職員間での共通認識にばらつきがないか、また、活動の中で十分活かされているかなどの振り返りは常に必要である。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理	

念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館の事業や行事を企画する時は、児童館ガイドラインや目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的に基づいて作成している為、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。
2－1－（2） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	利用者にとって居心地の良い場所となるように、各部屋（図書コーナー、図工室、地下ホール）の機能を活かした遊びと活動を提供している。地域の団体（下目黒図書の会、目黒どんどこ太鼓、目黒区美術館、目黒区エコプラザ等）とも連携し、児童館事業に積極的に取り入れている。 また、複合施設である為、区が主催し他所管が運営する行事（リバーサイドフェスティバル）にも積極的に協力参加し、子ども達の経験値の向上に努めている。
2－1－（3） 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) － (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	子ども会議では「目黒区子ども条例」の内容を分かりやすく説明している。また、子ども会議に限定せず常に意見が出せるよう「くまごろう BOX」を作製した。そこに投函された意見は新聞やグラフなどにまとめ、可視化した上で玄関ロビーに掲示した。また、特に多かった意見をもとに行事を開催するなど、子どもの声を大切にしてきた。
2－1－（4） 児童館の理念・目的及び施設特性について	

良いと思う点	改善が必要だと思う点
児童館での日常の遊びや行事活動の中で、異年齢の子どもが一緒に過ごし関わり合っている。子ども同士の出会いの場や、友人関係がより深まる場所になっている。	児童館ガイドライン・目黒区児童館運営指針の理念・目的等を、定期的に再確認する必要がある。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)	
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	子どもの様子については、毎日の児童館・学童保育クラブの職員打ち合わせの中で情報共有を行い、日誌に記録を残し、全職員が統一した対応ができるよう確認している。 また、必要に応じて家庭とも連絡を取り合い、情報を共有し、適切な支援に努めている。
2-2-(2)	
子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	図工室では、十分に材料を揃え、段階を踏んで体得した工作技術を用いて、自由な発想で作品を作ることができるようにしている。 図書コーナー、地下ホールでは、それぞれの部屋機能に合った遊具を用意し、遊びのマニュアルを紹介するなど、子どもたち自身で遊びを選択し、また発展しやすい環境を整えている。 発展した遊びに関しては、職員間でルール等の情報を共有し安全面を確保している。

2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	集団として展開しやすい遊具や遊びを準備し、個人で来館している子どもにも発達段階や職員との信頼関係を考慮しながら、積極的に活動を紹介・援助している。
2-2-(4)	
遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
図工室では様々な素材をそろえて子ども達が発想豊かに工夫しながら工作を楽しめるようにしている。また、動的な遊びでは、子ども達で遊びやルールを決め、異年齢で楽しく遊べるようになってきている。 子ども会議やくまごろう BOX で出た子ども達の意見や要望を大切に、可能な限り実現させてきた事により、児童館の活動に参加する子どもが増えた。	引き続き、職員の経験値や力量の違いについては、それぞれが更に自己研鑽し、全体のスキルアップに繋がるように努力していく必要がある。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1)	
緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	毎月1回、年間事業計画に基づき、避難訓練を実施しており、有事の際に適切な対応ができるように備えている。内容としては、地震・火事・防犯と、様々な状況を想定して実施している。中には消防署や警察署の指導も仰ぎ、より充実した内容の訓練になるように工夫している。更に「安心でんしょばと」のシステムを使い利用者や利用者の保護者に迅速に正確な情報を配信できるよう、登録の促進と配信練習に努めている。 また、ヒヤリハット事例の共有や、館内で発生した事故については職場内で振り返り、再発防止策の徹底をはかっている。嘔吐物処理セットや救急箱の中身の点検、防犯セットの確認等を適宜行っている。
2－3－(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	毎朝、開館前の消毒の際に、施設の点検も兼ねている。閉館時にも同様に環境整備を行っている。 施設面で気が付いた事があった場合は、早急に目黒区民センター中央監視室、施設管理課と連絡を取り、対応している。 また、オンラインで開催された危機管理研修は全員が参加し、食物アレルギー等について学ぶ機会を持ち、理解が深まるよう努めている。 地震や台風や大雪など自然災害があった翌日には、必ず施設点検を行い危険箇所や壊れている場所の有無等の点検を実施している。 設備や遊具に不具合があった場合は、職員間で情報共有し、修理や新品の購入など適切に対応している。